

インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）リッショウ	フリガナ）ケイザイ	フリガナ）カワグチ シンイチ
立正大学	経済学部	川口 真一ゼミ

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）カワグチ	フリガナ）ハナワ ケンゴ	5	無
川口ゼミ B チーム	埴 健悟		

研究テーマ（発表タイトル）
保育士不足について

※必ず＜企画シート作成上の注意＞を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

現在日本は少子高齢化問題を抱えているにも関わらず、待機児童問題が発生している。なぜこのような問題が起きてしまうのか原因を研究した結果、様々な問題があるが中でも大きな要因は保育士不足であった。

保育士不足によって、待機児童問題が起きてしまうことを根底に置き、なぜ保育士は不足しているのか、保育士不足は解決できないのかを追求し、保育士不足を早急にかつコストを抑えて解決することを目的として研究成果を発表。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

保育士一人あたりに管理できる児童の数は定められており、0歳児は保育士一人につき三人まで、1、2歳児は六人まで3歳児は20人まで、4、5歳児は30人までとなっている。このため、保育所という施設だけを増やしても保育士の数が十分でなければ受け入れられる児童の数も限られてしまう。また保育士の有効求人倍率は、全国で1.85、東京は5.44という結果になっている。この数値が多ければ大きいほど人材は不足している。

資格を保有していながら就業していない潜在保育士は約76万人いる。この潜在保育士が再び保育士として参入しない理由として多く挙げられたのが責任の重さ、就業時間が希望と合わないことであった。また現在就業している保育士への改善希望調査によると最も多かったのが給与・賞与の改善、次いで職員数の増員、事務雑務の軽減であった。

3. 研究テーマの課題

現状分析により出てきた保育士不足の課題は保育業務は事務雑務も多く重労働もかなり多い。それにもかかわらず仕事に見合わぬ低給料であることだ。保育士の負担を軽減するか、給与を改善することが求められる。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

保育士不足の負担軽減・補助を目的としてシニア層を保育業務に参入させるプランを提案する。シニア層に注目した点は、仕事を退職し時間に余裕がある点や子育てが一段落しており、新たな生きがいを求めていることからである。シニア層導入による保育士の利点としては、まだ年齢的に若い保育士の心の支援者となる点、朝の早い時間帯の仕事の補助をしてもらい仕事の負担が減る点、遠足時の不審者対応や力仕事を任せられる点である。シニア層の利点としては、生きがいにつながることや自身のこれまでの経験や知恵を、保育士や子供に伝承すること。子供と触れ合うことで自身の活性化につながる点である。またコスト的な面をみてもシニア層の平均時給は約1000円で、22日出勤×4時間＝1か月、平均8万8千円となり保育士1人分の給料でシニア層二人を雇える。パートの形で忙しい時間帯や早朝にシニア層を投入することで保育士の労働を減らすことが可能である。現在必要とされている保育士の数は約七万人とされている。もし必要とされている七万人の保育士が確保できたと仮定し、七万人分の保育士の給与を五万円引き上げた場合、年に420億の費用が必要となる。現在就労している保育士のことも考慮すると2580億円、合わせると約三千億円の費用がかかる。しかし仮に七万人必要とされている保育士をすべてシニア層でまかなえたと仮定してみたら、約739億の費用で済む。また生きがいや自身の活性化につなげるために保育の仕事をしているため給与五万円引き上げる政策は不要と考えられる。以上のことよりシニア層の導入は大幅なコストカットが見込める。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

実際に働いている保育士57人にシニア層導入についてどう思うかという問いに半数近くが良いことと回答した。事務・雑務においてシニア層が補助できるものはあるかの問いも半分以上は補助できるものであるというアンケート結果であった。なかでも早朝出勤は保育士の補助において助かるというアンケート結果も得た。

6. 結果や今後の取り組み

アンケートの結果から、事務・雑務や早朝出勤など、シニア層が補助することで保育士の負担が軽減することやシニア層の導入は保育士の給与改善より、少ない費用で保育士不足の解消につながる点から保育士不足をシニア層の導入によって解決できる結論に至った。

7. 参考文献

厚生労働省－児童福祉施設最低基準

「東京都保育士実態調査報告書」（平成26年3月）東京都福祉保健局

児童福祉施設最低基準

参考：厚生労働省【「保育士等における現状」平成27年9月】

厚生労働省「職業安定業務統計」

出典：登録者数：厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育所調べ

インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、3ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限り、ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・日経BPマーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。